

# 灼熱の地を開く

## アフリカ支援の山陰人

タンザニアの首都・ダルエスサラーム市の中心部から車で二十分。都会の騒々しさから離れた郊外に、益田市出身の海外青年協力隊員、見国祐也さんの(心)が働くメディカルストアスパートメント(MSD)本部がある。

MSDは保健省配下の機関で、薬剤や医療機材を管理し、供給を一手に引き受ける。取扱品は薬剤のほか、ワクチンや病院ベッドなど四千種類に及び、国内の医療機関はすべてMSDを通じて必

### MSD本部での奮闘

要な品を購入する。五千平方メートルの広大な敷地にある本部内で、見国庫間での商品の移動や、さんが真つ先に案内して購入先への納品など物資くれたのは、薬剤などが

## 在庫管理に頭悩ます日々

保管された倉庫。数百種類管理しているが、伝票の類の薬剤や検査器具を入書送間違えやコンピュータされた段ボールが山のようにターへの入力ミスが重なるに積まれ、英語で「日本」って、在庫を把握し切れ国民よりの」と記された援助物資もあつた。国民の命を救う物資のは、整然と置かれていて

2 ように見えたが、見国さん、人為ミスを減らすには通用しない。覚えたシステム。IT部門のイサワヒリ語でコミュニケーションが難しい。年一度の棚卸では、数千個単位で実在と差が出るという。国内十一カ所にある倉庫間の商品の移動や、システム構築に携わった日本の通信会社での経験しか考えない」との姿勢は、国情の違うMSDでは戸惑いとともなう

面期的な事業を担うのは、見国さんだけ。高度なしので、「なぜそうするか過程を見ずに結果しか考えない」との姿勢懸念の声も挙がった。遅々として進まない事業。「導入する気があるのか」とイサワ部長に話め寄ったこともある。部長は見国さんの働きぶり

を認めた上で「ユウヤはチーター、エイズが速すぎる。導入には着実なステップが必要」と諭す。皆さんの管理でエイズの検査キットやマラリア治療薬が全土に行き渡らない。地方で看護師として働く協力隊員から「MSDに頼んでも薬がない」との嘆きを聞き、焦燥感も募るが「まず、その日できることから」と見国さん。奮闘は続く。

山陰ロイド  
Sanin Sainou  
総合



で、見国祐也さん。在庫数は正確に把握されていない。山積みされたMSDの倉庫で、薬剤の説明を受け、職員から。在庫数は正確に把握されていない。タンザニア・ダルエスサラーム市

メディカルストアスパートメント(MSD)日本の厚生労働省にあるタンザニア保健省の傘下にある独立機関。全土の医療機関で利用する医療機器の供給を管理する。本部を含めて11カ所に倉庫を保有し、地方病院への供給は地方倉庫を通じて行われる。

矢 (本社報道部・佐野卓)